

<全体分析>

試験時間 60分

<p><b>解答形式</b> 全問マーク式</p> <p><b>分量・難易 (前年比較)</b></p> <p>分量 (減少・やや減少・<b>変化なし</b>・やや増加・増加) 昨年と同じく、大問5題・小問40問。</p> <p>難易 (<b>易化</b>・やや易化・変化なし・やや難化・難化) 昨年あった「やや難」の問題がなくなり、「やや易」の問題が出題されたため、昨年度よりも「易化」した。</p> <p><b>出題の特徴や昨年との変更点</b></p> <p>地域：欧米史3題、アジア史2題。昨年度と同じく、欧米史の割合が高かった。</p> <p>時代：古代から現代までまんべんなく出題されているが、古代・近世からの出題が多かった。</p> <p><b>新課程を踏まえた出題</b></p> <p>特になし。</p> <p><b>その他トピックス</b></p> <p>特になし。</p>
---

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク空所 マーク正誤	ローマによる地中海支配の完成	共和政時代のローマ史を中心に、ヘレニズム史も出題。解答となる短文の正誤判定が難しくないので、全体としてやや易。	やや易
II	マーク空所 マーク正誤	宗教改革・三十年戦争と神聖ローマ帝国	④「a」ロココ様式の芸術は18世紀に成立したので、対抗宗教改革がおこった時期でないことを想起できれば、正しく答えることができる。	標準
III	マーク空所 マーク正誤	東南アジア大陸部の歴史	大河流域を中心に扱う。③④は実教出版や東京書籍の教科書のための記述にもとづく短文が多くやや難であるが、全体的に標準的。カンボジアに関する③の「c」は、スールヤヴァルマン2世が難しいが、アンコール=ワットが都城でないことに気づけば、正しく答えることができる。	標準
IV	マーク空所 マーク正誤	高麗・朝鮮王朝	高麗・朝鮮と中国王朝との冊封関係を扱う。⑥「c」「d」の正誤判定に迷うかもしれないが、全体的には標準。	標準
V	マーク空所 マーク正誤	ミルトン=フリードマンと「新自由主義」	レーガノミクスをテーマに、20世紀以降のアメリカ合衆国大統領の事績を問う問題。レーガン政権以降に関する⑤⑥は、冷戦終結後の歴史についての学習ができていないかによって点差がひらくであろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>本学の入試問題は、様々な地域・時代から幅広く出題されるので、苦手な分野をなくすことが重要。短文正誤問題の割合が高いので、用語だけを覚えるのではなく、誰が・いつ・どこで・何を・どうしたのか念頭に置いて学習して欲しい。正誤問題の全てが誤文選択であり、正誤判断に迷う短文が多いが、解答となる短文の誤りがはっきりしているものが多いので、教科書に記載されたことがらを確実に頭に入れることが第一である。また、同じようなテーマが繰り返し出題されることが多いので、過去の問題の学習を徹底したい。</p>
--